

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 市川市立中山小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒272-0813

千葉県市川市中山1-1-5

E-mail work2-nakayama@ichikawa-school.ed.jp

Website http://www.nakayama-syo.ichikawa-school.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 293 名 女子 309 名 合計 602 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「心豊かで かしこく たくましく」を学校教育目標として、ESDを通して総合的な人間力の育成の一環と捉え、ESDの実践を通して「自ら学び、思考し、表現する力の育成」を目標とした。

具体的には、信頼関係の構築、未来につながる基礎教育の構築を柱に、①基礎基本定着に係わる活動、②信頼関係の構築に係わる教育、③人と人、人と自然、人と社会との好ましいかかわりに係わる学習を行った。

① 基礎基本の定着に係わる活動

本校では、長年理科指導の研究を継続している。知識を丸暗記する学力ではなく、自ら関わり、実感を伴った理解をする学力の確立を目指している。子どもが、本校が考える学力を身につけていく過程とは、生活科では、自分の思いや願いを持って対象物にかかわる中で、気づき（思考の深まり）、気づきをもとに次の目的に向かって活動し、気づきの質を高めていく（探究心の高まり）ことだと考える。理科では、事象を追究していきたいという意欲から、体験的な活動を通して考えを深め（思考の深まり）、そこから新たな疑問が生まれていく（探究心の高まり）ことだと考える。この思考と探究心の相互関係は、ESDにおける対話を通じた問題解決を柱とする学習の構築の理念と合致すると考える。今年度より、校内研究にESDの視点を位置づけることで、より対話と教材の選定に研究の重点を置いた。

② 信頼関係の構築に係わる教育

信頼関係を構築するにあたり、基盤となる活動として「①自然に交わすことのできる挨拶」「②本音で語り合える人間関係」「③児童理解、相互理解の推進」「④指導力の向上」「⑤自助と共助」を重点とする。①について、校内では、児童会が中心となり、定期的にあいさつ運動を展開した。また、中学校区全体の共通の活動として、保護者・教職員が共同であいさつ運動を展開することで、地域の方々との関わりを深めた。②について、「ふれあい道德」を年間行事に位置づけ、地域の方などから貴重な講話をいただく時間を設け、学校と地域との関わりを子どもたちが実感できる活動を行った。

③ 人と人、人と自然、人と社会との好ましいかわりに取り組む学習

低学年においては、生活科の学習を通して自然体験の充実を図った。校内の動植物に触れるだけでなく、風や、光、影など、自然現象を利用したおもちゃ作りなどの活動を充実させた。

中学年においては、校内の植物や樹木、生物の生態について、自然博物館より講師を招いて年に3回、自然観察を行った。季節による変化などを時系列で味わうことができた。

高学年において環境学習の一環として、理科教育や総合的な学習の教育活動を通して、学校内のビオトープ等自然環境を自主的に維持・管理していく。併せて、活動過程において、本校のビオトープについて、保護者や地域に情報発信することで、持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成を図った。



① 公開指導研修会の様子



② ビオトープ周辺の環境を整える活動（５年生）



③ ふれあい道德の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校のＥＳＤの核となる活動は学習活動である。研究主題を「子どもの探究心を育てる理科・生活科 ～子どもが自ら問い、考える授業づくり～」とし、学習を通して新しいものを見つけたり知ったりする喜びや、何かを追究する面白さを味わわせることを目指している。指導については、新しく定められる学習指導要領に基づいて計画しているので、教師主導型の学習ではなく、児童が発信する疑問や課題を自ら解決し、対話を通して現象や事実を分析し、新たな見方や考え方を身に付ける学習の形態に取り組んだ。（アクティブラーニング型）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

昨年度までは、特定の担当者のみがユネスコスクールやＥＳＤを意識した活動を行っていたが、今年度からは校内研究の中に位置づけたことで、全職員で、ＥＳＤの視点について検討し合える環境を整えることができた。主にＥＳＤのねらいを達成させるのは学習だが、地域との関わりや、地球環境とのつながりを意識する活動も、持続可能な社会の構築には欠かせない活動なので、次年度以降はあらゆる教育活動の中から、何がＥＳＤとつながられるのかを考えていきたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

今年度の教育活動について、活動ごとに全職員へ振り返り用紙を配付し成果と課題を挙げた。また、年間の教育活動についても同じように、振り返りを実施したことで、次年度への改善点を見出した。ＥＳＤの視点と学習計画とのつながりを学習指導案で明確にしたものの、授業のどのような活動で具体的に行うのかが定着していないことがわかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

上記活動①については、毎年11月に市内の全小学校の職員を集め、公開指導研修会が実施されており、学習指導案の配付と、授業展開が行われている。今年度より、ESDの視点と各授業とのつながりが記された学習指導案に基づいた授業が展開されており、対話を通して新しい見方・考え方を獲得していく児童の様子を参観していただいている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

市川市ユネスコ協会との連携により、他校の実践について報告する会議に参加している。他校の実践だけでなく、ESDの最新の動向について情報を得ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

上に記した市川市ユネスコ協会との連携により、市内のユネスコスクール加盟校と、実施内容についての情報交換を行った。重視する視点や活動内容は異なっているが、主に職員への意識の浸透や組織的な活動について意見を交換した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ESDを意識的に取り入れたことで、学校教育目標である「心豊かで かしこく たくましく」に近づけること、また、その時の児童の姿を職員がより具体的で容易に確立できるようになった。全ての教育活動は、児童個人の人間形成だけでなく、持続可能な社会の構築ともつながっているということを意識できるようになると、より児童主体の学習活動が展開できると考えられる。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

29年度の活動を継続しながら、改善点を明確にする。「心豊かで かしこく たくましく」を学校教育目標として、ESDを通して総合的な人間力の育成の一環と捉え、ESDの実践を通して「自ら学び、思考し、表現する力の育成」を目標とする。

具体的には、信頼関係の構築、未来につながる基礎教育の構築を柱に、
①基礎基本の定着に係わる活動、②信頼関係の構築に係わる教育、③人と人、人と自然、人と社会との好ましいかかわりに取り組む学習を行う。

①基礎基本の定着に係わる活動

校内研究である理科教育を中心に、学習を通して総合的な人間の育成を図る。ESDにおける対話を通じた問題解決を柱とする学習を構築する。

②信頼関係の構築に係わる教育

信頼関係を構築するにあたり、基盤となる活動として「①自然に交わすできる挨拶」「②本音で語り合える人間関係」「③児童理解、相互理解の推進」「④指導力の向上」「⑤自助と共助」を重点とする。

③人と人、人と自然、人と社会との好ましいかかわりに係わる学習

低学年においては、生活科の学習を通して自然体験の充実を図る。校内の動植物に触れるだけでなく、自然現象を利用したものづくりを行う。

中学年においては、校内の植物や樹木、生物の生態について、自然博物館より講師を招いて自然観察を行う。

高学年において環境学習の一環として、理科教育や総合的な学習の教育活動を通して、学校内のビオトープ等自然環境を自主的に維持・管理していく。併せて、活動過程において、本校のビオトープについて、保護者や地域に情報発信することで、持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成を図る。